



芝山小だより



冬休み号

清瀬市立芝山小学校

校長 寺井 俊敬

<http://www.kiyose.ed.jp/>

昔遊びの良さ

校長 寺井 俊敬

8月30日(火)から始まった2学期が本日で終わります。今学期は、開校70周年記念集会、記念式典、運動会、展覧会がありました。また、学年ごとの校外学習を行いました。そして、保護者の皆様には、前述の運動会、展覧会、10月に行われた清瀬教育の日には、久しぶりに人数制限なしで学校にお越しいただくことができました。その他にも、保護者・地域の皆様のご協力のもと、漢字検定、サタデースクール、花を植えようの活動の実施等の教育活動も行うことができました。大変嬉しいことです。いずれも保護者・地域の皆様のご協力もあり、子供たちにとって、達成感を味わいながら次の活動への意欲のもてるよい学びの機会となっています。感謝申し上げます。

ところで、本校のクラブ活動の中に「昔遊びクラブ」というものがあります。活動をしている部屋を通りかかったら、皆で肩を寄せ合って、「だるま落とし」や「けん玉」を行っていました。私も子供の頃、少しだけ練習に取り組んだことがあるので、けん玉をやらせてもらいました。子供たちには「膝を使うといいよ。」とか「集中、集中。」と言いながら、やって見せましたが、結果は2回失敗。3回目にやっと先のとがったところに入れることができました。



今はデジタルの時代です。コンピュータやスマホ、テレビゲームで遊ぶことができます。もちろん、新しいものには新しいよさがあります。一方、昔遊びのように、古いものには古いもののよさがあります。『けん玉の先にはどうしたら入れられるだろう』『だるま落としは、どうしたら頭の部分を残せるだろう』等と考えながら練習します。一生懸命に練習して、できた時の喜びは格別です。

ちょうど、学校だより12月号で、本校の教員が「特別支援教室とアナログゲーム」というテーマで、皆様にお伝えしたばかりです。記事には「実践的なコミュニケーションを自然な形で繰り返し行うことが可能だと考えます。」とあります。昔遊びというと、だるま落とし、けん玉の他にも、こま、凧揚げ、かるた等が思い浮かびますが、アナログゲーム同様、友達と一緒に行うことで、コミュニケーション力や、遊びによっては集中力、手先や身体の巧緻性といった力も高められるかもしれません。

まもなくお正月です。お正月ということで、家族や親戚の方々が集まることあるでしょう。そのようなときに、日本人が大切にしてきた昔の習慣も残していきたいと考えます。時代は変わっても、子供たちには、昔遊びを少しでも味わってほしいと思っています。毎年、3学期になると1年生が、生活科で昔あそびを体験します。

これから冬休みになります。本日、終業式で子供たちに、交通事故、不審者に注意することを話しました。また、困ったときには、近くの大人の人に相談するように話しました。3学期始業式、冬休みで成長した子供たちの元気な姿を見られることを楽しみにしています。1年間、本校の教育活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。どうぞよいお年をお迎えください。

(学校ホームページ「令和5年度校長室より」は、本日分掲載で、今年最後です。2024年は、1月9日(火)から再開予定です。学校ホームページ「令和5年度校長室より」も、ぜひご覧ください。)